

乗鞍岳における人工採精事業について (令和7年度事業実施結果報告)

1. 概要

野生復帰を念頭に置いた飼育下保険集団の遺伝的多様性の維持を目的に、野外個体群への影響を可能な限り低減する手法として、乗鞍岳での採精によるファウンダー確保とこの精子を活用した人工授精を実施したもの。なお、この事業は令和6年度から実施し、技術確立を目指している。

2. 採精状況

令和7年度の採精状況は以下の通り。比較のため、令和6年度も含める。

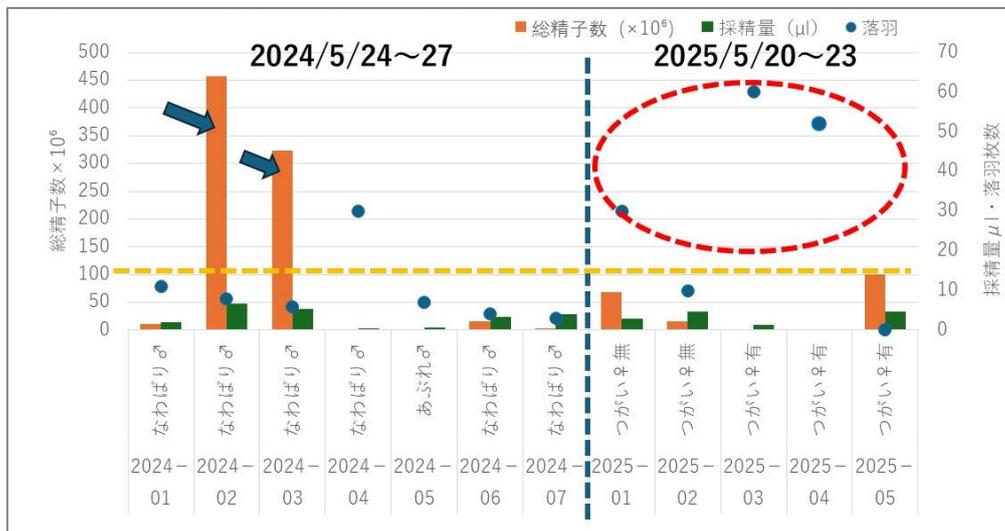


図 1. 令和6年度及び令和7年度の採精状況

3. 輸送結果

輸送結果は以下の通り。なお、精液の輸送温度はいずれも2～4℃を維持して輸送した。

表 1. 輸送結果

輸送日	輸送先	輸送時間及び人工授精状況
5月21日	富山市ファミリーパーク	車輸送時間3時間ののち人工授精
5月22日	恩賜上野動物園	車4時間+新幹線2時間ののち人工授精
	横浜市繁殖センター	電車利用、翌日採精後24時間で人工授精



写真 1. 捕獲を行った乗鞍岳大黒岳周辺と精液を保管した様子

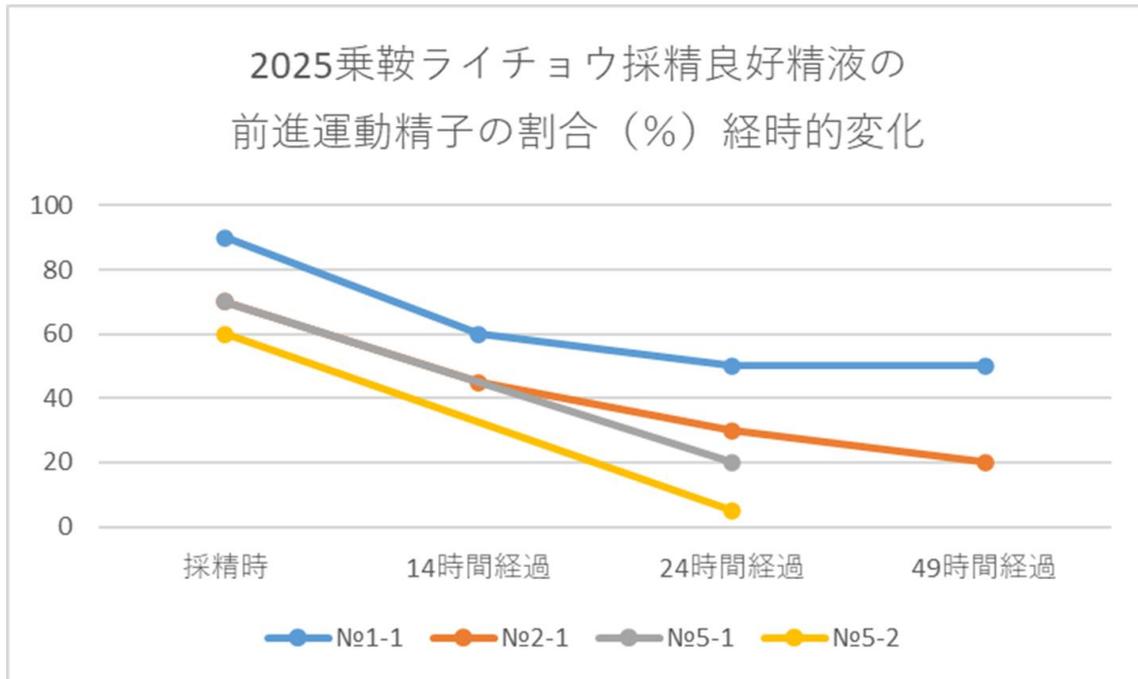


図 2. 良好精液の前進運動精子の割合（％）の経時的变化

3. 人工授精結果

人工授精結果は以下の通り。令和 7 年度はヒナの誕生には至らなかった。

表 2. 人工授精と注入精子数

雌No.	注入精子検体 No.	注入精子数 ($\times 10^6$)	注入精子中		採精からの経過時間 時間：分	有精判定:太 田先生
			活性+	(前進運動精子) 精子数 ($\times 10^6$)		
N105 (産卵中)	1-1	29		20.3	6:42	有精卵
	2-1	7.1		2.8	5:25	
N61	1-1	29		20.3	6:56	AIから25 日後産卵→ 有精卵2
	2-1	7.1		2.8	5:39	
N27	3-1	0.3		0	28:48	AIから10 日後産卵→ 有精卵
	5-1	50		5	7:22	
	5-2	37		11.1	7:15	
N122 (産卵中)	1-1	6.3		3.2	57:48	凍結保存精 液 AI試験と共 用 → 有精卵
	2-1	1		0.2	56:17	
	5-1	7.0		1.4	32:02	
	5-2	4.2		0.2	31:55	

4. 今後に向けて

野生復帰個体の創出体制の維持のためには遺伝的多様性の維持は重要項目であり、野外個体群への影響を可能な限り低減する手法として、精液による追加フェウンダー確保・人工授精・保存の技術開発を進める必要がある。令和 7 年度の事業結果を踏まえ今後、下記の観点から事業の検討を進める。

- ①発情期ピークをとらえた採精
- ②人工授精時に適期となるよう動物園のメスの繁殖シーズンを調整